

0. 事前準備 [productprep]

◆商品台帳の作成

商品データを取り込むために、商品台帳（Excelファイル）が必要です。

1. 既に商品台帳（Excelファイル）がある場合

現在利用している商品台帳がExcelファイルで管理されている場合は、そのまま利用できます。

商品番号について

- 商品管理システム(ProductManA)では、商品番号（品番）を基準に商品データを管理します。そのため、商品台帳を取り込む前に、すべての商品へ商品番号（品番）を設定してください。
- 同じ商品番号（品番）のデータが複数存在する場合は、後の行の商品データが取り込まれます。
- 意図しないデータ上書きを防ぐため、商品番号（品番）は重複しないように管理してください。

商品台帳の例

自動保存

Products_20260623_105754_...

検索

ファイルホーム挿入描画ページレイアウト数式データ校閲表示ヘルプ

コメント共有

F4

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q
1	連番(No)	削除Mk	商品番号	商品名	商品状況	店舗名	端末使用担当者	分類	商品在庫	商品タグ(Japan)	商品タグ(English)	商品付属品	商品備考	仕入れ先	仕入れ先Id	伝票No	伝票日
2																	

- Excelファイルの1行目には項目名を設定してください。
 - 項目名は、「商品台帳出力」で作成したExcelファイルの項目名に合わせてください。
 - アプリの読み込み処理では、Excelファイルの項目名と、アプリに登録されている項目名を照合し、アプリの商品台帳に読み込みます。
- そのため、Excelファイルの項目名はアプリの項目名と一致している必要があります。
- また、システムは列番号ではなく項目名を基準にデータを取り込みます。
- そのため、Excelファイルの列順をアプリの表示順に合わせる必要はありません。
- 項目名が正しく設定されていれば、列の並び順が異なっても取り込みできます。

分類名・仕入先名および販売先名

- 商品台帳の[分類][仕入先][販売先]に入力した名称は、アプリ内の[分類][仕入先][販売先]へ自動的に登録されます。
- [分類][仕入先][販売先]は名称ごとに管理されるため、同じ名称が複数の商品で使用されている場合でも、1件のデータとして登録されます。

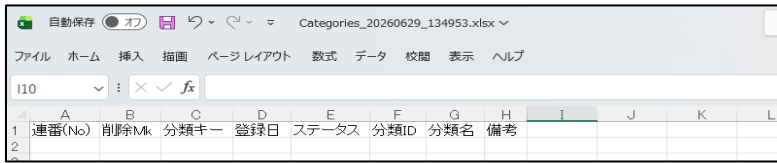
例)	商品番号	商品名	分類	仕入先	販売先
	A0001	腕時計	時計	〇〇商事	△△リサイクル
	A0002	バッグ	バッグ	〇〇商事	□□オークション
	A0003	腕時計	時計	X X 商事	□□オークション

取込後

[分類]	時計	[仕入先]	〇〇商事	[販売先]	△△リサイクル
	バッグ		X X 商事		□□オークション

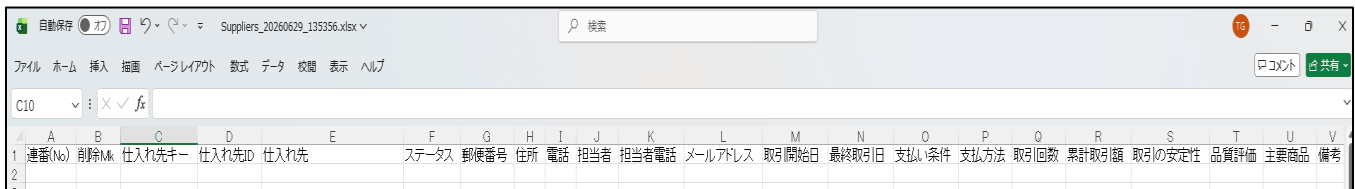
- ・登録された[分類][仕入先][販売先]の詳細情報は、アプリ内で入力できるほか、台帳をExcelファイルとして出力し、編集後に再度アプリへ取り込むこともできます。

【分類表】



	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
1	連番(No)	削除Mk	分類キー	登録日	ステータス	分類ID	分類名	備考				
2												

【仕入先台帳】



	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U	V
1	連番(No)	削除Mk	仕入れ先キー	仕入れ先ID	仕入れ先	ステータス	郵便番号	住所	電話	担当者	担当者電話	メールアドレス	取引開始日	最終取引日	支払い条件	支払方法	取引回数	累計取引額	取引の安定性	品質評価	主要商品	備考
2																						

【販売先台帳】

自動保存 27 17

2. 商品台帳（Excelファイル）がない場合

商品台帳がない場合は、アプリで商品データを登録し、商品台帳出力機能を利用してExcel形式の商品台帳を作成できます。

手順例

1. 商品管理システム(ProductManA)で商品データを登録する
2. 商品台帳出力機能を実行する
3. Excel形式の商品台帳を作成する
4. 作成した商品台帳を商品データの管理や一括取込みに利用する

- ・作成された商品台帳は、そのまま商品データの取込みや更新作業に利用できます。

3. 商品台帳の運用について

- ・データの登録・修正は、1台の決まった端末で行うことを推奨します。
- ・登録・修正後は、商品台帳、分類表、仕入先台帳および販売先台帳をExcelファイルとして出力し、バックアップとして保管してください。
- ・他の端末で同じデータを利用する場合は、出力したExcelファイルを各端末へ取り込むことで、データを連携できます。
- ・定期的に各種台帳を出力することで、バックアップの作成と複数端末間のデータ共有を行えます。